

## 鹿島区学校適正化に係る協議状況等について

学校適正化に係る協議については、「南相馬市公立学校適正化計画（平成 30 年 11 月策定）」を踏まえ、まず、小学校に在籍している児童の保護者及びこれから小学校に入学する予定の未就学児童の保護者の意向を集約するため、以下のとおり保護者との協議を実施している。協議状況及び今後の進め方については以下のとおり。

### 1 鹿島区（八沢小、上真野小）の協議経過

日付	八沢小学校	上真野小学校
R3. 7. 5	第 1 回 PTA 役員懇談会 学校適正化の進め方等について説明	
R3. 8. 26	第 2 回 PTA 役員懇談会 児童数、複式学級の状況、小中一貫教育等 について説明	
R3. 10. 15		第 1 回 PTA 役員懇談会 学校適正化の進め方等について説明
R3. 10. 30	第 1 回保護者懇談会 PTA 役員懇談会の内容を説明し、懇談	
R3. 11. 17		第 2 回 PTA 役員懇談会 児童数、複式学級の状況、小中一貫教育等 について説明
R4. 4. 28	第 3 回 PTA 役員懇談会 これまでの経過、意識調査の実施について 説明	
R4. 5. 26		第 3 回 PTA 役員懇談会 保護者懇談会の開催について説明
R4. 5. 20 ～5. 27	保護者意識調査実施	
R4. 6. 28	第 4 回 PTA 役員懇談会 意識調査の結果、要望等に対する市教委の 考え、保護者懇談会の開催について説明	
R4. 6. 30		第 1 回保護者懇談会 PTA 役員懇談会の内容を説明し、懇談
R4. 7. 1	第 2 回保護者懇談会 意識調査の結果報告及び出された意見に対 する市教委の見解を説明	
R4. 10. 12		第 4 回 PTA 役員懇談会 鹿島区学校適正化に係る市の考え方（素案） について説明
R4. 10. 18	第 3 回保護者懇談会 鹿島区学校適正化に係る市の考え方（素案） について説明	

## 2 保護者懇談会等で出された主な意見等

### (1) 八沢小学校

これまで実施した保護者懇談会や意識調査の結果、統合に対しては、保護者の6割以上の方から「やむを得ない」との意見をいただいているが、「市のビジョンを示してほしい」「スクールバスの運行継続」「放課後児童クラブの受入れ確保」などの要望のほか、鹿島区の小学校を一つにした小中一貫教育の実現を希望する意見も寄せられている。

#### 【保護者懇談会で出された主な意見等】

- 八沢幼稚園が休園になったことで、鹿島幼稚園に通っているため、交友関係を維持するためそのまま鹿島小学校へ通わせたい（未就学児の保護者）
- 男女比バランスの悪化、複式学級、少人数での友人トラブルが心配
- 通学時の交通手段、児童クラブ受入れを確保して欲しい
- 学校規模が大きくなって先生の目が行き届くのか不安。統合後もきめ細かな指導を望む
- 市の方針やビジョンを示してほしい
- 統合先は鹿島小学校が良い
- 鹿島区で小学校1校にすべできないか
- 学区を見直して学校を残してはどうか
- 統合した場合でも、ICT活用について八沢小学校と同レベルでの活用を望む
- 統合先の学校との交流を行い、丁寧に時間をかけた環境調整を望む

### (2) 上真野小学校

児童数が令和10年度まで横ばいで推移すること、通学距離の問題、地域とのつながりの維持等の理由から統合に慎重な声が多いが、八沢小学校の保護者同様、鹿島区小学校を一つにした小中一貫校を望む声もある。

#### 【保護者懇談会で出された主な意見等】


- 地域とのつながりが強いからこそ上真野小を継続したい
- 学校統合するとしても、鹿島小への統合が前提ではない
- 鹿島小は遠く、通学が大変（国道6号は越えたくない）
- 鹿島小学校に通うとなった場合、津波が心配
- 行きたい学校が選べる学校選択制にしてはどうか
- 男女比に不均衡が生じるのは問題。複式学級になるなら統合したい
- 小中一貫校は良いと思う
- 学校同士の交流する機会があれば、統合しなくても良いのではないか

### 3 鹿島区学校適正化にあたっての市の考え方（素案）について

これまでの懇談会等で保護者から出された意見を踏まえ、鹿島区学校適正化の協議を進めるにあたっての土台とするため、今後の鹿島区全体の教育環境整備の方向性について、「鹿島区学校適正化にあたっての市の考え方（素案）」をまとめた。

今後、本素案を基に鹿島区の保護者及び地域の方々との協議を進めていく。

### 4 今後のスケジュール

時期	内容
R4. 10月中旬～	鹿島区小学校（鹿島小、八沢小、上真野小）保護者等との協議
	 保護者との協議がまとまった場合
	地区懇談会の開催

### 5 その他

鹿島小学校については、現在321名の児童が在籍しているが、令和10年度には243名と大きく減少していく見込となっている。

今般の鹿島区小中学校適正化に向けた取組を進めるに当たっては、素案に記載のとおり、各学校間の交流活動を積極的に実施するなど、八沢小学校、上真野小学校だけでなく、鹿島小学校も含めた鹿島区全体での特色と魅力ある教育環境の整備により適正化の効果の最大化を図る。

(参考) 鹿島区内小中学校児童生徒数推移 (R4. 4. 5 現在)

     複式学級規模

鹿島小学校							R4実績入り
鹿島小	小1	小2	小3	小4	小5	小6	合計
R4	51	52	64	39	50	64	320
R5	60	51	52	64	39	50	316
R6	44	60	51	52	64	39	310
R7	33	44	60	51	52	64	304
R8	34	33	44	60	51	52	274
R9	35	34	33	44	60	51	257
R10	37	35	34	33	44	60	243

八沢小学校							R4実績入り
八沢小	小1	小2	小3	小4	小5	小6	合計
R4	7	7	11	9	20	12	66
R5	6	7	7	11	9	20	60
R6	4	6	7	7	11	9	44
R7	0	4	6	7	7	11	35
R8	5	0	4	6	7	7	29
R9	8	5	0	4	6	7	30
R10	2	8	5	0	4	6	25

上真野小学校							R4実績入り
上真野小	小1	小2	小3	小4	小5	小6	合計
R4	14	11	5	7	11	16	64
R5	12	14	11	5	7	11	60
R6	9	12	14	11	5	7	58
R7	13	9	12	14	11	5	64
R8	7	13	9	12	14	11	66
R9	7	7	13	9	12	14	62
R10	7	7	7	13	9	12	55

鹿島中学校				R4実績入り
鹿島中	中1	中2	中3	合計
R4	81	97	95	273
R5	93	81	97	271
R6	77	93	81	251
R7	53	77	93	223
R8	79	53	77	209
R9	71	79	53	203
R10	74	71	79	224

# 鹿島区学校適正化にあたっての市の考え方(素案)

## 1 本素案作成の目的

市教育委員会では、平成30年11月に策定した「南相馬市公立学校適正化計画」(以下「市公立学校適正化計画」という。)に基づき、児童数が減少し、複式学級規模がある学校及び今後複式学級規模が見込まれる八沢小学校、上真野小学校の今後の方向性をまとめるため、令和3年度より保護者懇談会を行ってまいりました。

その中では、学校適正化に対する可否や、通学手段の確保、放課後児童クラブの受入れ確保等の学校適正化に向けて必要な環境整備に係る要望のほか、「小中一貫教育を実施して欲しい」「交流活動を実施して欲しい」「市のビジョンを示してほしい」といった様々なご意見をいただいたところです。

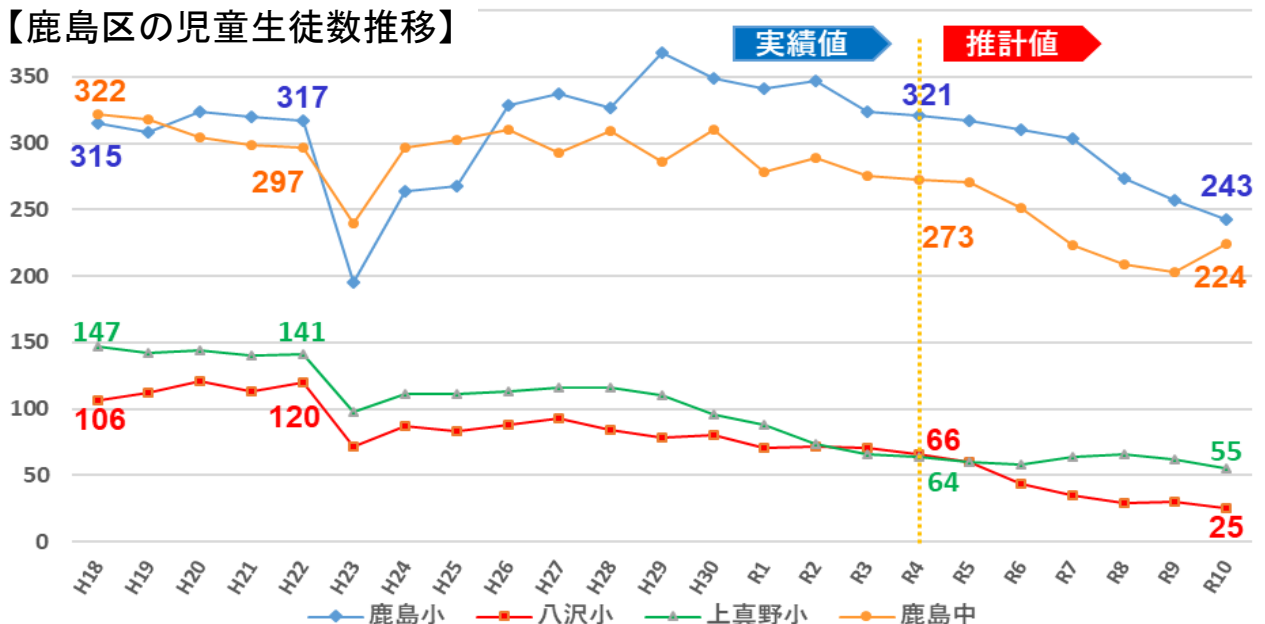
本素案は、上記の状況を踏まえ、鹿島小学校、鹿島中学校も含めた今後の鹿島区全体の教育環境整備の方向性について、市の考え方を示すとともに、保護者や地域の方々との協議の土台とするため作成するものであり、今後は、この素案を基に、保護者や地域の方の意見を伺い、具体的な方針をまとめてまいります。

## 2 児童生徒数の現状と推移

鹿島区の子どもの数は、今後も減少傾向が続く見込みとなっています。

その中でも八沢小学校の児童数は現在66名ですが、令和10年度には25名となるなど、急速な児童数の減少が見込まれています。また、鹿島小学校も現在は321名の児童が令和10年度には243名と大きく減少する見込みであり、上真野小学校は現在64名の児童が令和10年度には55名と低水準で横ばいの状況となっています。

【鹿島区の児童生徒数推移】



### 3 児童生徒数の減少に伴う影響

児童生徒数が減少し、学校の小規模化が進むと、男女比のバランスの悪化や複式学級の対応のほか、切磋琢磨しながら子どもたちの資質・能力を伸ばしていく機会、多様な価値観や考え方に触れる機会、認め合い、協力し合う機会が失われていくことになります。

加えて、児童生徒数が減少すると、学校に配置される教職員数も減少していくことから、これまで行ってきた教育活動の継続が難しくなることも想定されます。

### 4 市公立学校適正化計画における統合モデルの検討

児童生徒数が減少していくことを踏まえ、市公立学校適正化計画では、鹿島区の統合モデルとして以下の2つのモデルケースを示しています。

#### ○鹿島区

##### <モデル1> 鹿島小を単独で存続し、それ以外の小学校を全て統合するパターン

	小学校			児童数
統合なし	鹿島小 293			293
統合校①	八沢小 58	上真野 54		112

##### <モデル2> 全小学校を統合し、小中一貫教育が可能となるパターン

	小学校			児童数		中学校	児童生徒数
統合校①	八沢小 58	上真野 54	鹿島小 293	405	小中一貫 ----->	鹿島中 293	698

また、この統合モデルでは、「統合の対象校が3校を超える統合モデルにおいて、学校の統合が一度に進まない場合に、段階的に学校統合を進めること」、「小学校の統合が示されている地域でさらに小中一貫教育の導入を検討すること」を想定しています。

市教育委員会では、今後の鹿島区の児童生徒数の減少に伴う教育環境整備の方針をまとめるため、市公立学校適正化計画に示した統合モデルについて検討を行いました。

#### <モデル1>

##### 鹿島小を単独で存続し、それ以外の小学校を全て統合するパターン

#### 【検討結果】

統合により一時的な児童数の増加は見込めるものの、市公立学校適正化計画で定めている適正規模にならず、今後、児童数が減少していくことを考えた場合、統合の効果が生かすことができない。

また、いずれかの学校に統合した場合、他方の児童の通学距離が著しく伸びるため、通学が困難。

## <モデル2>

### 全小学校を統合し、小中一貫教育が可能となるパターン

#### 【検討結果】

鹿島区内の全小学校を統合することで適正規模化が図られるとともに、義務教育9年間を通した小中一貫教育の展開が可能。統合の効果を最も高めることができ、子どもたちにとって魅力ある教育環境を構築することができる。

なお、統合校の場所については、児童が通いやすく、小中一貫教育が行いやすい立地を中心に検討する必要があります。

## 5 鹿島区小中学校の今後の方向性

- 子どもたちが将来必要となる資質・能力を育成するとともに、子どもたちにとって魅力ある教育環境を整備するため、**鹿島区内の全ての小学校を統合し、深い学びの実現に向け、鹿島中学校を含めた小中一貫教育の実施を目指します。**

なお、学校統合の時期については、各校の児童数の推移や複式学級の編成状況等、学校の現況や保護者・地域の方々の意見を踏まえ決定します。

- **小中一貫校の開設**に当たっては、小中一貫教育の効果を最大限生かすとともに、児童生徒の通学を考慮し、適地を選定した上で、**小中一貫校の新設を検討します。**
- 学校の新設には、場所や規模、学校の形態、義務教育9年間を通じた教育活動の検討、建築に要する期間など数年の期間が必要になります。その間、子どもたちの教育活動に支障がないよう、さらに、今後の小中一貫教育実施を見据えながら、子どもたちにとって魅力ある教育環境を整備するため、**急速な児童数の減少が見込まれる八沢小学校の早期適正化を図るとともに、上真野小学校も含めた鹿島区全体で特色と魅力ある教育活動を実施します。**

- 本素案は、市公立学校適正化計画に基づき、保護者や地域の方々の合意を得て進めることとします。

よって、この方向性の実現に向けて早期に実施するもの、これから調整していくものについて、随時保護者や地域の方々との協議を行ってまいります。



## 6 鹿島区小中学校の適正化を踏まえて取組む教育活動

「5 鹿島区小中学校の今後の方向性」を踏まえ、以下のとおり取り組んでまいります。

### (1) 適正化の効果を生かした教育活動の実施

- ・集団の中で多様な考え方に触れ、切磋琢磨する機会を増やし、**コミュニケーション能力や向上心を高める**ことができるようにしていきます。
- ・クラス替えにより意欲を新たにしたり、**新しい人間関係を構築する力**を身に付けたりすることができるようにしていきます。
- ・グループ学習や習熟度別学習、専科指導などの多様な指導形態をとることにより、**活発な授業を展開**するとともに、**学力や思考力・判断力・表現力を高める**ことができるようにしていきます。
- ・運動会や学習発表会などの学校行事の実施に当たり、種目や演目に幅を持たせ、クラス同士、チーム同士で切磋琢磨することにより、**行事が活性化**するようにしていきます。
- ・体育の球技や音楽の合唱・合奏のような集団で行う学習を人数の制約なく行うことができるようにするなど、**学習の充実**を図っていきます。
- ・係活動の役割をバランスよく分担させ、子どもたち一人ひとりが**活躍する場や機会を確保**していきます。
- ・より多くの教員によって、子どもたちの**評価を多面的**に行えるようにしていきます。
- ・教員や学習支援員などが連携をとって子どもたち一人ひとりの個性や行動を把握し、**きめ細かな指導を行える**ようにしていきます。





## (2)小中一貫教育の実施

### ①小中一貫教育の導入のメリット

#### ・長期的な教育が可能に

小中一貫教育では、義務教育9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を行えることが最大の特徴かつメリットです。

授業においては、小学校の学習で定着できなかった内容を中学校で補うなど、小中一貫教育ならではの教育内容や指導体制の充実が図れること、また、授業以外でも小学校、中学校の垣根を越えて、様々な活動や行事を行うことが可能になります。

また、学校側は小学校から中学校までの期間を通じて子どもたちの成長を確認できるため、子ども達それぞれの個性を把握し、伸ばしていきやすいなどのメリットがあります。

#### ・発達の段階に合わせた指導が可能に

義務教育期間における子ども達の心身の発達は、6-3制が導入された昭和20年代前半と比較すると、早期化しています。

子ども達の発達段階に合わせ、小中一貫教育では、現行の6-3制から4-3-2制や5-4制のように、柔軟な区切りを設けることで、成長段階に適した指導が可能となります。

#### ・中学校に上がる際のギャップが少なくなる

小学校から中学校へ新しい環境に移行する段階において、環境の変化に戸惑い、不登校やいじめに発展するなど「中1ギャップ」が発生する恐れがあります。

小中一貫教育を実施する学校では、普段から小中学校の交流が行われ、小学校から中学校への移行の際にも急激に変化するのではなく少しずつ環境に慣れさせることが可能なため、教育段階のギャップの差を子どもたちが感じにくいなど、小学校と中学校の接続を円滑にするメリットがあります。

※文部科学省の調査では、小中一貫教育の実施により、「中学校進学に不安を覚える児童の減少」・「中1ギャップの緩和」に大きな成果があると報告されています。

#### ・幅広い年齢層でのコミュニケーションが図れる

小中一貫校では、下は6歳から上は15歳までが同じ学校で学ぶため、年の離れた児童・生徒同士が顔を合わせる機会も多くなります。

様々な活動における異学年交流で、お互いを思いやり助け合う気持ちが育まれ、上級生が下級生の手本となろうとする意識の向上や下級生の上級生に対する憧れが強まるなど、社会性やコミュニケーション能力の育成が可能です。

#### ・魅力ある教育活動の展開が可能に

小中一貫校では、義務教育9年間を通じた教育カリキュラムの編成が可能です。

小中一貫教育を通して、子どもたちが将来必要となる資質・能力を育成するとともに、ふるさとに対する誇りや愛着を持たせるための教育活動を行うことが可能です。具体的な取組例として、外国語教育やプログラミング教育、ふるさと教育の充実のほか、部活動への小学校からの一部参加を行っている学校があります。

#### ・教科担任制及び教員の乗り入れ授業の実施

小中一貫教育の代表的な取組みとして、教科担任制の導入や教員の乗り入れ授業の実施があります。

小中一貫教育に取り組む学校の6割が小学校高学年からの教科担任制を導入するとともに、中学校教員による小学校への乗り入れ授業なども行われています。

教科担任制と乗り入れ授業については、どちらも教員の専門性を生かした質の高い授業を行うことで、児童生徒の学力や学習意欲の向上が期待できるほか、乗り入れ授業を通じて教員のつながりの強化や指導力の向上、児童生徒の情報共有化による適切な指導が図れます。

## ②小中一貫教育の形態の検討

本市における小中一貫教育には、次の2つの形態があります。**小中一貫校の開設に当たっては、義務教育学校も視野に検討**を進めます。

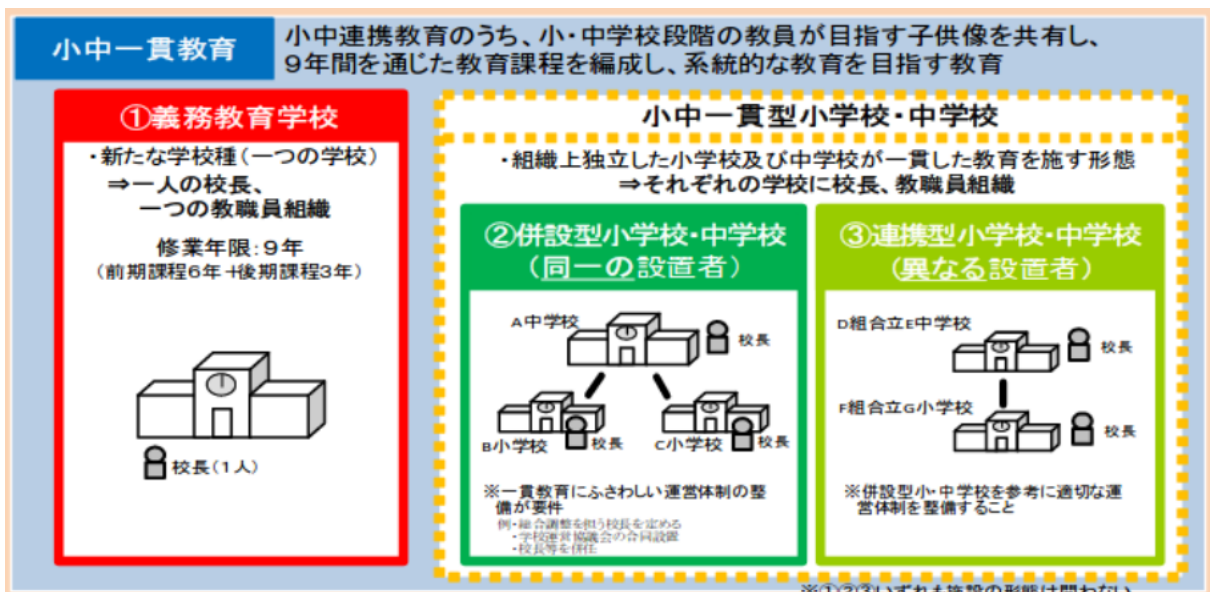
また、通常小中学校の教育課程の区切りは、「6-3制」となりますが、小中一貫教育では「4-3-2」「5-4」などの柔軟な学年段階の区切りを設定できます。近年子どもたちの発達の早期化が指摘されていること、及び「中1ギャップ」の解消に向け、効果的な学年段階の区切りを検討してまいります。

### ①義務教育学校

- ・ **一人の校長の下、一つの教職員組織を置く。**
- ・ 1年生から9年生までの9年間の学校となる。  
(中学1年生は、義務教育学校7年生)

### ②併設型小学校・中学校

- ・ **既存の小学校及び中学校の枠組みを残したまま、義務教育学校に準じた形で9年間の教育目標を設定**し、9年間の系統性を確保した教育課程を編成・実施する。



※③連携型小学校・中学校は学校設置者が異なるケースのため、本市には該当しない。

## ③幼稚園・保育園との連携

小中一貫教育の実施に合わせ、幼稚園・保育園との連携を深め、幼保・小での交流活動や学習面における取組みを進めることで、小1ギャップの解消を図るとともに、幼稚園・保育園から中学校卒業まで切れ目のない教育活動を展開します。

## 【参考】小高区での小中一貫教育の取組状況

### ○小中一貫教育の実施

令和3年4月より、

「南相馬市立小高小中学校チャレンジ構想 未来へつなげ！小高の学び～豊かな心と確かな学力を身に付け、夢に向かって努力する子どもの育成～」と題し、小中一貫教育を実施。

### ○教職員体制

- ・教職員 校長・教頭を除いた全教職員に兼務発令

### ○教育課程

- ・外国語教育

こども園及び小学校において、英語の発音の基礎を学ぶフォニックス学習を実施

中学校英語教員の小学校での乗り入れ授業を実施

中学生の修学旅行時に英語体験型研修施設での研修を実施

有識者による外国語教育の助言・提案事業の実施

- ・プログラミング教育

プログラミング教育用ロボットを活用したプログラミング授業を実施

- ・ふるさと教育

小学校6年生と中学1年生による小高区の地域人材を活用した体験学習を実施

小学校3年生から総合の授業において、ふるさと「小高」の授業を実施

### ○教職員の連携

- ・小学校における外国語学習を、中学校英語科教員の乗り入れ授業により実施

- ・中学校における数学の授業へ、小学校専科教員の乗り入れ授業を実施

### ○児童生徒の異学年交流

- ・ふるさと体験学習のほか、小学校運動会への中学生の参加や幼保小中高合同により避難訓練など、年間を通した学校間の異学年交流を実施

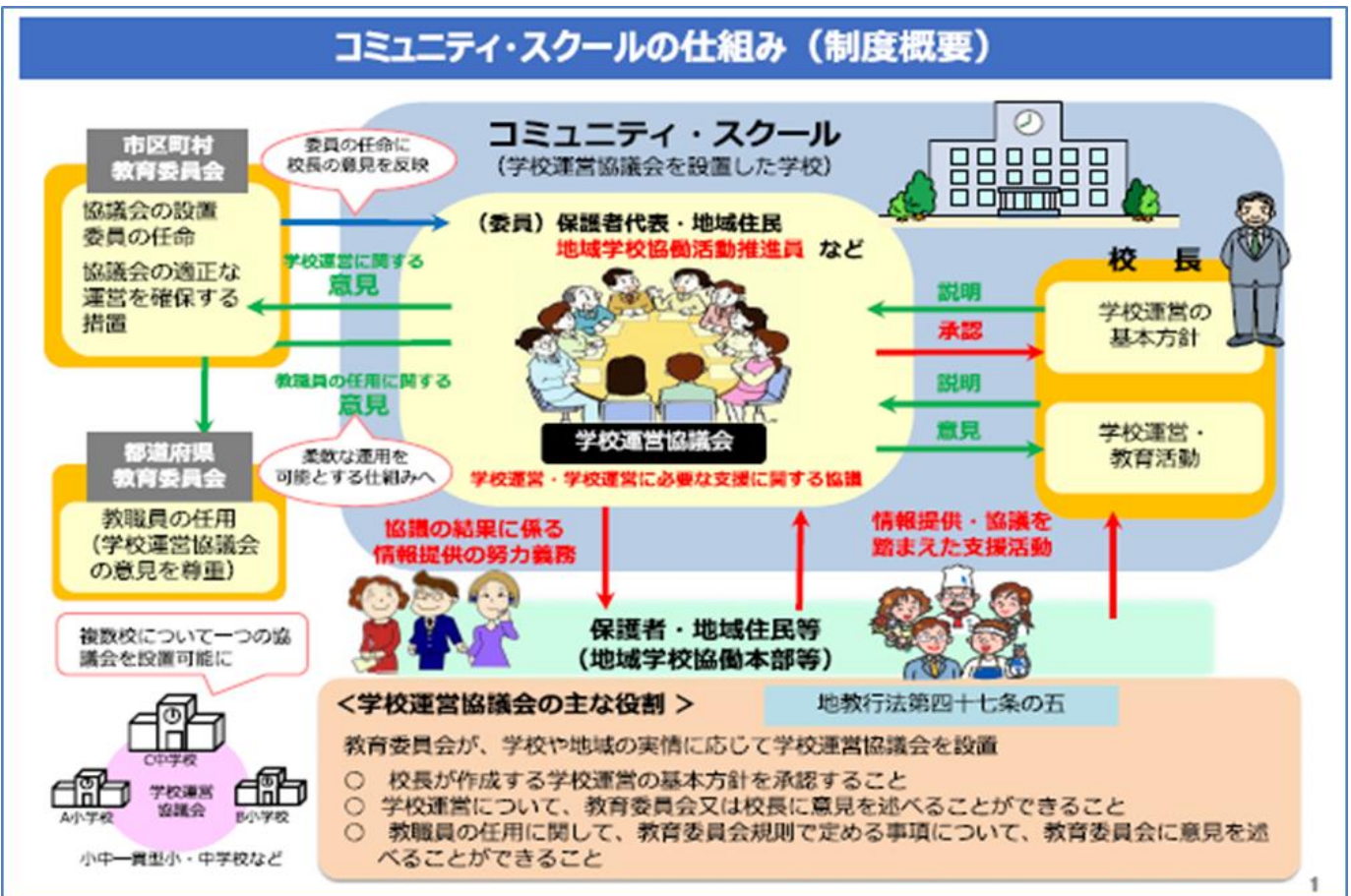
### (3)コミュニティ・スクールの導入推進

学校統合後においても、地域とのつながりを維持するとともに、地域の教育力を最大限生かし、子どもたちに地域に誇りと愛着を持たせる教育活動を展開するため、地域の方々が学校運営に参画し、地域と学校が協働で学校運営を行うコミュニティ・スクールを導入し、「地域とともにある学校づくり」「学校を核とした地域づくり」を推進します。

#### 【コミュニティ・スクールについて】

コミュニティ・スクールは、保護者や地域住民等が一定の権限と責任をもって学校運営に参加する合議体で、学校・保護者・地域住民等が共通の認識や課題を持ち、熟慮と議論を重ねて課題解決を図っていくものです。

次代を担う子どもに対して、どのような資質を育むのかという目標を共有し、地域全体で子どもたちの成長を支える仕組みである「地域学校協働活動」と合わせて実施することで、地域と学校の結びつきを強化し、地域や保護者の意見を踏まえた学校運営体制の構築を図ります。





## 7 実現に向けた取組み

### (1) 八沢小学校の早期適正化の取組みについて

八沢小学校の児童数は、令和10年度には25名となることが予想されるなど急速な児童数の減少が見込まれており、それに伴い、男女比のバランスの悪化や複式学級の対応のほか、切磋琢磨しながら子どもたちの資質・能力を伸ばしていく機会、多様な価値観や考え方に触れる機会、認め合い、協力し合う機会が失われていくことが想定されます。

加えて、児童生徒数が減少すると、教職員数も減少していくことから、これまで行ってきた教育活動の継続が難しくなることも想定されます。

一方で、先に述べたとおり、小中一貫教育の実現に向けた学校の新設には、数年の期間が必要になると見込まれます。

このような状況のため、今後の鹿島区全体での小中一貫教育(小中一貫校開設)を見据えつつ、早期の対応が必要と考えることから、段階的な取組みとして、次のとおり進めていきたいと考えます。

#### ① 八沢小学校の早期適正化に係る考え方

- 今後八沢小学校では児童数が急速に減少することから、八沢小学区に最も近く、かつ適正規模校である**鹿島小学校との統合**することが望ましいと考えます。
- 魅力ある教育環境を整備し、子どもたちの学習効果を高めるためには、準備や調整のための期間が必要であることから、**最短でも令和6年4月の統合が目安**となります。  
なお、統合までの期間については、鹿島小学校との交流活動を実施し、統合による児童の不安解消に努めます。
- これから小学校に入学する未就学児は、保護者が希望する場合は、**鹿島小学校への区域外就学**を認めることとしたいと考えます。
- 早期適正化の効果を最大限生かすとともに、今後の小中一貫教育の取組みに向け、特色と魅力ある教育活動を推進します。

## ② 児童の不安解消のための取組み

### ア 交流活動の実施

統合するまでの間、授業や学校行事などで**鹿島小学校と八沢小学校の児童の交流活動を積極的に行う**とともに、統合先の鹿島小学校において受入れの雰囲気づくりを行い、スムーズに学級に溶け込めるよう配慮します。

また、令和5年度からは、中学校への入学も見据え上真野小学校も交えた交流にも取り組みます。

### イ いじめ防止の取組み

統合に当たっては、道徳教育や人権教育を通して、子どもたちの道徳心や人権意識を高め、統合によるいじめを防止するとともにそれぞれの良さを認め合う学校風土づくりを推進します。

## ③ 統合に関わる支援等

### ア 統合に伴う通学支援

現在、旧南柚木分校地域などの児童を対象とするスクールバスを運行しておりますが、統合後においても**スクールバスの運行と遠距離通学費助成金制度を活用した通学支援の継続**を図ります。

なお、スクールバスの対象者の範囲などの具体的な運用については、今後の統合準備協議会においてご意見をいただきながら調整してまいります。

### イ 児童クラブの受入れ

児童クラブの**受入れ人数は確保**します。

なお、児童クラブの場所などについては、受け入れ人数の確保を優先しつつ、保護者の皆様からご意見をいただきながら決定します。

### ウ 制服・運動着の準備

統合校における制服・体操着の取扱いについては、保護者の皆様からご意見をいただきながら統合準備協議会で決めていくことになります。

なお、真野小学校と鹿島小学校の統合時は、真野小学校在校生の鹿島小学校の制服・運動着の購入費を助成したことから、八沢小在校生についても制服や体操着が新たに必要となる場合は、**一体感を高めるため購入費の助成**をする考えです。

## (2) 上真野小学校における取組み

上真野小学校の児童数は、令和10年度まで現在と同規模で推移することが予想されており、引き続き小規模傾向にあるものの、早期適正化を図る場合、通学距離が著しく伸び、児童や保護者の負担が増大することが想定されます。

よって、今後の小中一貫教育(小中一貫校の開設)を見据えながら、小規模の状況にあっても可能な限り子どもたちにとって魅力ある教育環境を整備し、将来必要となる資質・能力を育成していくため、今後行う意識調査の結果等を踏まえながら以下のとおり取組んでまいります。

### ①上真野小学校の適正化に係る考え方

- 鹿島小学校、八沢小学校(又は統合校)との交流活動を積極的に実施し、中学校進学への不安を解消することにより、中学校へのスムーズな進学を図ります。
- 今後の小中一貫教育の取組みに向け、鹿島小学校、八沢小学校(又は統合校)と合わせて、特色と魅力ある教育活動を推進します。
- 現在取組んでいる地域学校協働本部と連携した活動は、統合後も継続して行うべき活動であることから、上真野小学校だけでなく、鹿島小学校、八沢小学校(又は統合校)と合同実施を目指します。
- 保護者や地域の方々と適正化の協議を継続していくとともに、適正化を目指すべきとなった段階で、鹿島小学校、八沢小学校(又は統合校)を交えた具体的な協議を行います。

## (3) 鹿島小学校における取組み

鹿島小学校については、八沢小学校との早期適正化及び今後の小中一貫教育(小中一貫校の開設)を見据えるとともに、中学校へのスムーズな進学を図るため、授業や学校行事などで八沢小学校と上真野小学校の児童との交流活動を積極的に行います。

また、八沢小学校と同様に交流活動の積極的な実施により、統合による不安解消に努めてまいります。

## (4) 鹿島中学校における取組み

鹿島中学校については、今後の小中一貫教育の導入を見据え、児童生徒間の交流活動を実施するほか、教職員間の交流等を通じて、目指す子ども像の共有化や学校間のつながりの強化を図ります。

また、鹿島区をICT教育モデル地区とするため、鹿島中学校においてもICT教育に取組み、義務教育9年間で個別最適化された学習の実現を図ります。



## (5) 鹿島区で取組む魅力ある教育活動について

八沢小学校と鹿島小学校の早期適正化の効果を最大限生かすとともに、今後の鹿島区の小中一貫教育の取組みに向け、上真野小学校も含めた鹿島区内小学校において、次に掲げる**特色と魅力ある教育活動を推進**します。

### ① 適正化の効果を生かした教育活動の実施

「6 鹿島区小中学校の適正化を踏まえて取組む教育活動」「(1)適正化の効果を生かした教育活動の実施」に記載のとおり、鹿島小学校と八沢小学校の統合校において適正化の効果を生かした**「コミュニケーション能力、向上心の向上」「新しい人間関係を構築する力の育成」「学力や思考力・判断力・表現力の向上」「教員や学習支援員などが連携した、きめ細かな指導体制の確保」**などに取組みます。

上真野小学校についても、これらの教育効果を最大限に高めるとともに、中学校へのスムーズな進学を図るため、統合校との交流事業を積極的に実施します。

### ② ICT教育の取組みの継承とさらなる発展

現在、八沢小学校や上真野小学校で取組んでいるタブレットを活用した先進的な**ICT教育の取組みを継続**して取組み、情報活用能力が高まるようにしていきます。

また、**鹿島区の小中学校をICT教育モデル地区**とし、現在取り組んでいる学習ドリルアプリの活用のほか、理科の観察アプリや協働学習アプリといった様々な教育アプリを活用し、学びを一層充実させることにより、学力向上や学習意欲の向上に取り組みます。

A 一斉学習		B 個別学習			
<b>A1 教員による教材の提示</b>  画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用	<b>B1 個に応じる学習</b>  一人一人の習熟の程度等に応じた学習	<b>B2 調査活動</b>  インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録	<b>B3 思考を深める学習</b>  シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習	<b>B4 表現・制作</b>  マルチメディアを用いた資料、作品の制作	<b>B5 家庭学習</b>  情報端末の持ち帰りによる家庭学習
C 協働学習					
<b>C1 発表や話し合い</b>  グループや学級全体での発表・話し合い	<b>C2 協働での意見整理</b>  複数の意見・考えを議論して整理	<b>C3 協働制作</b>  グループでの分担、協働による作品の制作	<b>C4 学校の壁を越えた学習</b>  遠隔地や海外の学校等との交流授業		

### ③ プログラミング教育の推進

現在、市内の小中学校で取り組んでいるPepperを活用したプログラミング教育をさらに発展させ、**新たなプログラミングロボットやプログラミングアプリ**などの導入を目指します。

これにより、子どもたちが楽しみながら**プログラミングを体験する機会の創出、プログラミング技術の向上**を図るとともに、**プログラミングを通して論理的に考える力**（プログラミング的思考力）の**育成**を図ります。



### ④ 外国語教育の推進

グローバル化の進展に伴い、英語4技能（話す・聞く・書く・読む）がバランスよく習得させ、国際社会に対応できる人材を育成するため、令和4年度から小高区でモデル事業として取組みをスタートした新たな**外国語教育「フォニックス学習<sup>※1</sup>」**を**鹿島区でも導入**を目指します。

加えて、普段の学校生活の中でも英語に触れ、外国人とコミュニケーションを取れる環境を構築するため、**ALTの学校単独配置**を目指します。

※1「フォニックス学習」とは・・・

英語圏の子どもたちに英語の読み書きを教えるために開発された学習法です。アルファベットごとの発音を先に学ぶことで、知らない英単語でも耳で聞いただけでスペルがわかり、正しく書くことができるようになるなど、英語の読み書きの基礎を養うことができます。

★ フォニックスでの読み方 ★				
Aa [æ] エア	Bb [b] ブ	Cc [k] ク	Dd [d] ドッ	Ee [e] エ
Ff [f] フ	Gg [g] グ	Hh [h] ハ	Ii [i] イ	Jj [dʒ] ジュ
Kk [k] ク	Ll [l] ル	Mm [m] ム	Nn [n] ス	Oo [o] オ
Pp [p] プ	Qq [k] ク	Rr [r] ル	Ss [s] ス	Tt [t] トッ
Uu [ʌ] ア	Vv [v] ヴ	Ww [w] ウォ	Xx [ks] クス	Yy [j] ユ
Zz [z] ス				



## ⑤ 学力向上教員の配置

市内小中学生の課題である算数・数学の学力を向上させるため、現在、鹿島小学校に算数の指導をティームティーチングにより指導する学力向上教員を1名配置しています。

今後も人員確保を図り、継続して算数の学力向上を目指します。



## ⑥ 高等教育機関との連携

市と連携協定を締結している新潟大学の教授などによる特別講義を実施します。

特別講義は、大学が所有する実験器具を使用した実験や内容を小中学生向けにした授業を実施いただき、大学という学びの場を知り、将来の自分のキャリアを考えるきっかけづくりをしていきます。





## ⑦ ふるさと教育の推進

鹿島区には、相馬野馬追(北郷本陣祭)、報徳仕法(七千石水路や荒至重の和算・測量術など)、真野古墳群、お浜下りなどの先人たちが残し、つないできた様々な史跡や伝統文化があります。

これら鹿島区の良さを学び、ふるさとに愛着や誇りを持たせ、地域の将来を担う人材を育成するため、子どもたちがそれぞれの地域のことでなく、鹿島区内の様々な歴史や伝統文化を学ぶ体験学習などを積極的に行います。



## ⑧ 幼稚園・保育園との連携

幼稚園・保育園との交流活動を積極的に行い、園児に小学校への憧れの気持ちを持たせ、スムーズな小学校入学を図ることで、小1ギャップの解消を図るとともに、小学生の小さい子を思いやる心を養います。

また、外国語教育を幼稚園・保育園から行うなど、学習面における取組みも進めてまいります。



## (6) 取組みの実現に向けた保護者や地域の方々との協議

先に記載したとおり、本素案は、鹿島区の学校適正化に向け保護者や地域の方々との協議の土台とするものであり、本素案に基づく取組みは、保護者や地域の方々の合意に基づいて実施します。

よって、本素案を基に、保護者や地域の方々への説明に努めるとともに、さらに意見を反映し、より効果的な取組みの実現に向け、協議を実施してまいります。